

猛暑が支援活動制約

西日本豪雨 救援ネットが報告

NPO法人「日本災害救援ボランティアネットワーク」(NVAAD、本部・西宮市)は19日、西宮市民会館(六湊寺町)で西日本豪雨災害の活動報告会を行った。被災地が広域にわたる西日本豪雨は中・長期の支援が求められるが、ボランティアと義援金の集まりに時間がかかっているといい、「何ができるのかを考えていこう」と話し合った。

NVAADは大阪北部地震の被災地の後、10日から奈良市、京都府宮津市、岡山県倉敷市などで活動しており、この日は冒頭、参加者全員で黙とう。寺本弘伸・常務理事が1カ月が過ぎた大阪北部地震の被災地について説明。「高層階の一人暮らしの高齢者の中には、揺れで移動した家具を動かすことも、割れた食器の処分もできない人もいた」と「見えない被災者」がいた状況を伝えた後、西日本豪雨の被害家屋の片付け・泥出しなどの活動を報告した。

理事長の渥美公秀(とみこうひさ)は「ボランティアが1人を介した形だけではなく、個別独自支援のボランティアも飛び込み、臨機応変に支援することが大切」と指摘。復旧支援のばらつきを埋める重要性に言及した。

大阪大大学院・稲場圭信教授(共生学)も真備町地区について「4000〜5000世帯が被災しているが、連休(14〜16日)でもボランティアが1500人ほどで絶対数が足りていない」と説明。「宗教関係者や大学などが独自の活動も展開しているが、猛暑が活動時間を制約している」と語った。稲場教授によると、寺社・教会は全国のコピー店の4倍ほどあるといい、宗教関係のネットワークと連携することで支援がより広範囲に

「ボランティアセンター」を介した形だけではなく、個別独自支援のボランティアも飛び込み、臨機応変に支援することが大切」と指摘。復旧支援のばらつきを埋める重要性に言及した。

大阪大大学院・稲場圭信教授(共生学)も真備町地区について「4000〜5000世帯が被災しているが、連休(14〜16日)でもボランティアが1500人ほどで絶対数が足りていない」と説明。「宗教関係者や大学などが独自の活動も展開しているが、猛暑が活動時間を制約している」と語った。稲場教授によると、寺社・教会は全国のコピー店の4倍ほどあるといい、宗教関係のネットワークと連携することで支援がより広範囲に行き渡るとの見方を示した。

会場では、中国からの留学生らが「被災者」とやりとりして初めて気づくニーズがあった。



西日本豪雨災害での活動を報告する日本災害救援ボランティアネットワーク理事長の渥美公秀・大阪大大学院教授(中央)＝西宮市六湊寺町の西宮市民会館会議室で

た」などと感想を口にしたり、猛暑で炊き出しが難しいことや被災した子どもたちの支援についての質問が寄せられたりした。

【高尾貞成】